●Dコース

# 虫の声

Ⓓ-1 クマゼミ
Ⓓ-2 ヒグラシ
Ⓓ-3 ミンミンゼミ
Ⓓ-4 アオマツムシ
Ⓓ-5 マツムシ

このコースでは声をたよりに、昆虫の分布を調べます。声を確かめるだけで、いちいち姿を見なくても種類がわかります。

とりあげた昆虫は5種。セミが3種、コオロギの仲間が2種です。虫の声コースと言っても、これらを一度に調べることはできません。昼間のクマゼミ（とくに朝よく鳴く）やミンミンゼミ、夜明けと夕方のヒグラシ、夕方から夜のアオマツムシ、マツムシなど、まず鳴く時間帯が違います。そして、もう一つ鳴き声の聞かれる時期も違います。ヒグラシは7月から8月中頃、ミンミンゼミ、クマゼミは8月、アオマツムシ、マツムシは9月から10月上旬に、それぞれよく活動します。そのため、やっかいでも何回かに分けて、そのシーズン、その時間帯に調べてください。

調べるのはこの5種ですが、一緒に聞くことができる虫はまだたくさんいるはずです。そうしたデータも個人的に集めたら、この調査がさらに楽しいものになるでしょう。

なお、虫の声はテレホンサービスで紹介する予定です。詳しくは追ってお知らせします。

D-1

# クマゼミ

●*Cryptotympana facialis*

## ■かたちと大きさ

翅(はね)を閉じたときの頭から翅の先までの長さは6.3～7.0cm。翅は透明だが胴は太くて真っ黒。そのうえ体が大きいので「熊ゼミ」の名がある。

## ■見られる場所

林や果樹園、公園をはじめ、樹木のあるいろいろな環境。センダンやホルトノキにたくさん集まる性質がある。

## ■くらし

成虫の活動期は7月中旬～9月はじめ(南西諸島では6月中旬から)。「シャンシャンシャン……」または「シャーシャーシャー……」と大きな声で鳴く。

オスは鳴きながら移動する性質が強く（これを鳴き移りという)、その距離はときに数十キロメートルに及ぶ。

## ■おもな分布地

太平洋側では関東地方南部、日本海側では福井県あたりから南西諸島にかけて分布。

東京では江戸時代から知られていたが、すべて神奈川、静岡方面から鳴き移りして来るオスであった。ところが近年、東京の一部でも発生するようになったので、今後どうなるか、その動きが注目される。

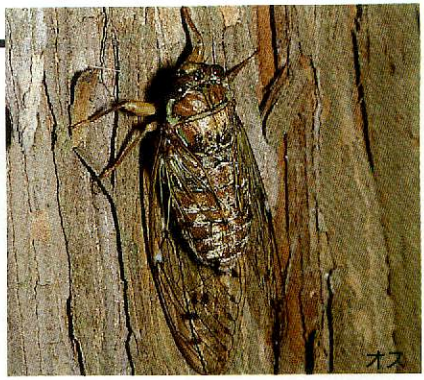
## ■見つけ方・見分け方

特徴ある鳴き声をたよりに探そう。鳴くのは午前中が多く、とくに8時～9時半頃までが盛んなので、この時間帯に調べよう。

D-2

# ヒグラシ

●*Tanna japonensis japonensis*


オス

## ■かたちと大きさ

翅(はね)を閉じたときの頭から翅の先までの長さは4～5cm。翅は透明。メスの腹部はオスにくらべて短く、とがった感じ。鳴くのはオスだけ。

## ■見られる場所

平地から山地の林、とくにスギなどの混じる暗い林に多い。山でよく見られるが、1,000m以上になるとほとんど姿を消す。

## ■くらし

成虫の活動期は7月中旬～8月末。9月になっても見られることはあるが少ない。

鳴き声は「カナカナ……」または「ケケケ……」。

## ■おもな分布地

北海道南部から九州までの各地とその周辺の島および奄美大島。

## ■見つけ方・見分け方

鳴き声をたよりに探そう。夜明けと夕方によく鳴くが、曇りの日には昼間でも鳴くことが多い。静かな所では1kmくらい離れていても声が聞こえてくる。

また、大きな林では鳴く時間が長いが、樹木の少ない小さな林ではわずかな間しか鳴かないので（ヒグラシが鳴くのに適した明るさの時間帯が短いためと考えられる）、注意が必要。

メス

D-3

# ミンミンゼミ

●*Oncotympana maculaticollis*

## ■かたちと大きさ

翅(はね)を閉じたときの頭から翅の先までの長さは5.5～6.3cm。翅が透明なセミは胴長(どうなが)のセミが多いが、ミンミンゼミだけは太くて短い。背中の模様は黒と緑の組合せ。

## ■見られる場所

林、公園、街路樹など、樹木のあるいろいろな環境。

東日本では平地～低山に多いが、西日本では低山～山地に見られる。

## ■くらし

成虫の活動期は7月中旬～10月はじめで、8月がもっとも盛ん。

鳴き声はよく知られている「ミーンミンミンミィー」。「ミーンミンミン」と声を張りあげるとき、おなかを上下に振り動かす習性がある。

## ■おもな分布地

北海道から九州までとその周辺の島々。対馬には生息するが、屋久島と南西諸島にはいない。北海道では温泉などがあり地温の高い地域に限られる。とくに札幌より北または東では、屈斜路湖畔以外に生息地は知られていない。東北地方北部でも少ない。

一方、東日本ではどこでも普通に見られるが西日本では少ない。これはクマゼミとの競合関係によるものと考えられる。近年、東京付近でもクマゼミが発生するようになったので、ミンミンゼミの分布の変化が注目される。

## ■見つけ方・見分け方

8月に特徴ある鳴き声をたよりに探そう。午前中によく鳴くが、午後鳴くことも珍しくない。

# アオマツムシ

●*Calyptotrypus hibinonis*

## ■かたちと大きさ

体長2.3～2.8cm。樹上で生活する緑色のコオロギの仲間。かたちはボート型でオスは背中に茶褐色の部分がある。

## ■見られる場所

林、公園、果樹園、街路樹、庭木など、樹木のあるいろいろな環境。

## ■くらし

成虫の活動期は8月下旬～10月末で、9月がもっとも盛ん。細い枝や茎に産みつけられた卵で越冬、翌年の6月に幼虫、8月に成虫になる。

夕方、薄暗くなる頃から、オスは樹上の葉にとまり「チリー・チリー・チリー・チリ・チリ・チリ……」な声で合唱する。10月中旬になると夕方の短い時間しか鳴かなくなる。また、気温14.5℃以下では鳴かない。

中国大陸原産の帰化昆虫。昭和20～30年代は目立たなかったが、50年代に急激に増えた。今後の広がりが注目される。

## ■おもな分布地

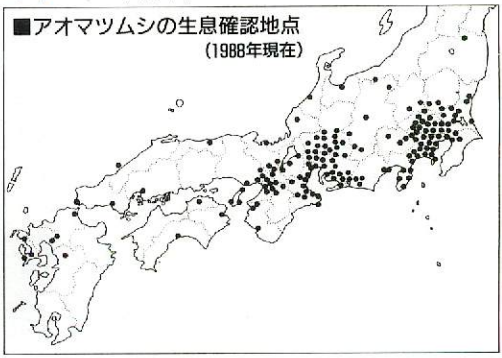
関東、東海、近畿地方に多いが、その他の地域でも見られる。

## ■見つけ方・見分け方

尻上がりにチリーチリーと鳴く声で確かめよう。9月、夕暮れから10時頃までがよい。

チリチリ……と連続鳴きするクサヒバリの声はアオマツムシに似るが、尻上がりにならないので、区別できる。またクサヒバリは夜も鳴くが、昼間よく鳴く。

■アオマツムシの生息確認地点
(1988年現在)



# マツムシ

●*Xenogryllus marmoratus*

## ■かたちと大きさ

体長1.8～3.3cm。色はうすい褐色で、よく見ると小さな黒点がまばらにある。オスはスズムシに似て、体が少し長め。メスは体が細長く、かたちはコオロギに近い。

## ■見られる場所

ススキの原やササ原など、明るく乾いた草原にすむ。

## ■くらし

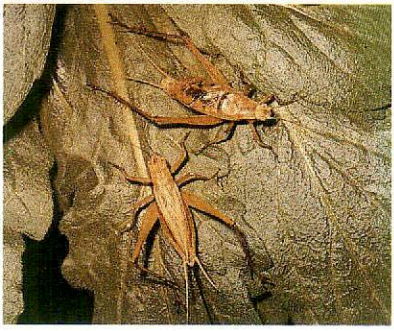
成虫の活動期は8～11月。ススキの根ぎわや茎と葉の間などに産みつけられた卵で越冬し、初夏に幼虫、8月中旬成虫になる。

オスはススキの茎を中ほどまで登り「チッチリン、チッチリンチリン」などと鳴くが、聞きようによっては「チンチロ・チンチロ、ピッピロロ」などとも聞こえる。昔からマツムシはチンチロリンと鳴くと言われている。

鳴くのは夕方から。1匹が鳴き出すと他のオスも連れ鳴きする。

## ■おもな分布地

太平洋側では宮城・福島県境あたりから南、日本海側では新潟県あたりから南に見られる。ただし、長野県のように山地の多い県では今のところ知られていない。冬の寒さに弱いためと考えられる。

## ■見つけ方・見分け方

9月頃の夜、ススキの原などで鳴き声を確かめよう。マツムシの声は金属的で甲高く、良くとおる。